

やりがい、いきがい 福祉の職場 訪問記

子どもたちの限りない可能性を伸ばし、 心を大切に育みながら共に育ちあおう

【三玉保育園(山鹿市)】

豊かな自然に囲まれた山鹿市の「三玉保育園」は、園児が栽培する野菜が植えられた畑があり、広い園庭の遊具の中には職員手作りのものも備えられています。現在0歳児〜5歳児まで123名の子どもたちが過ごしています。



社会福祉法人 三玉福祉会
三玉保育園

所在地: 山鹿市久原2960
電話: 0968-43-6330
設立: 昭和52年4月
理事長(園長): 木庭 英継
職員数: 24名

三玉保育園の活動や取組みについて、木庭英継園長、木庭律子保育士にお話を伺いました。

保育園はひとつの家族

同年齢活動と組み合わせ、平成12年度より3、4、5歳児のファミリー保育を始めました。保育園をひとつの家族ととらえ、保育士はお父さんお母さん、年齢の違う子どもたちは兄弟姉妹のように一緒に活動します。当初は、年上の子が年下の子にケガをさせたりしないかなど、少し心配もしましたが、みんな優しく接してくれます。年長児はうまくリーダーシップをとり、年少児は憧れの気持ちを持つなど、自然とお互いに育ち合っているようです。



木庭英継園長

地域の方々とのふれあい

昨年5月から、園内で「ふれあいいきいきサロン」を始め、子どもたちと校区の高齢者がふれあう機会を設けています。子どもたちと会った時、高齢者の方々の顔がパツと明るくなるのが分かります。一方、子



思いついたらすぐ行動と語る
木庭律子保育士

もたちも毎回会えるのを楽しみにしているようです。サロンをしなければもしかすると出会わなかったかもしれない方々と、本当のおじいちゃんおばあちゃんや孫のような関係となり、貴重なふれあいの場となっています。運動会などの園の行事に対する理解も厚く、地域の方々に見守られていると実感する日々です。



みんなで活動。石臼でそば粉づくり



保育士さんと二人三脚のそば打ちが待ちどおしい園児たち

キュウリ、トマトなど10種類以上あり、収穫した野菜は園の給食で出されることもあります。

子どもたちは野菜の成長をとても楽しみにしているようで、熱心に見守ってくれます。自分たちで育てたんだといううれしさで、嫌いな野菜も頑張つて食べてみたり、おいしさも増すのが、野菜を嫌う子が少なくなりました。たくましく育ってくれていると感じます。

食べ物育てることの大変さ、 楽しさ、食べる喜びを感じる

子どもたちが種をまいて水やりをして育て、収穫し食べるまでを体験する「食農育」の活動を取り入れています。育てているのは芋類や

取材をした日はちよつと、「そば打ち体験」が行われており、子どもたちは、収穫したそばの実を石臼でひいて粉にし、生地をこねて包丁で切り麺にするという一連の体験に目を輝かせながら取組んでいます。

子どもたちに囲まれながら生き生きと働く職員の方に、仕事のやりがいや楽しさについて話していただきました。

この日はそば打ち体験をした年長組を担当する、勤務4年目の
姉川恵里保育士

子どもたちは野菜を育てることで、食べ物大切にすることが育つとともに興味や関心の幅も広がっているように感じます。思いかけない質問が飛んでくることもあるので、私自身も日々勉強しながら子どもたちと向き合っています。自然の中で思いつきり体を動かしながら遊べる活動をたくさん取り入れるようにしています。



昨年4月から当園で働く
石原由紀子栄養士

給食の献立作成や調理に加え、子どもに食べ物の旬や栄養素などを伝える食育タイムも担当しています。献立にはなるべく旬の食材を取り入れるようにしています。食育タイムでは、子どもたちに少しでも理解しやすく、興味を持ってもらえるよう、イラスト等を使いながら伝えていきます。調理だけでなく直接子どもとふれあうことは自分自身の成長にもつながっていると思っています。

「すなおで、あかるく、たくましく」が保育目標の三玉保育園。子どもたちは、地域で温かく見守られながら、悪戦苦闘しながらも真正面から向き合う職員の方々とともに、食べ物を育てる楽しさ、食べる喜びをしっかりと学びながら、元気いっぱい、たくましく育っています。



オープン保育園デー



家庭ではあまり作らなくなった干柿づくりも



米づくり



「そば打ち体験」でできた
おいしいそば